第１章　昭和60年度京都大学構内遺跡調査の概要

西川幸治　　久馬一剛　　難波洋三

１　調査の大要

京都大学埋蔵文化財研究センターは，吉田キャンパスおよび附属施設の敷地内における建物新営やその他掘削工事の際には，当該部局の報告にもとづき，予定地の埋蔵文化財の調査を，既知の遺跡との関係や過去の調査結果より，試掘，発掘，立合にわけて実施している。昭和60年度には，以下の発掘調査３件，立合調査13件，資料整理１件を実施した。

発掘調査	農学部初期胚操作動物実験室新営予定地(北部構内ＢＪ31区)	(第３章，図版1-153)
	医学部附属病院内科系病棟新営予定地(病院構内ＡＪ18区)	(発掘中，図版1-154)
	医学部内科系臨床研究棟新営予定地(病院構内ＡＪ19区)	(発掘中，図版1-155)
立合調査	工学部高分子化学教室東棟別館等電気設備改修工事(本部構内ＡＺ25区)	(図版1-156)
	工学部建築系学科校舎新営その他の工事(本部構内ＡＺ30区)	(図版1-157)
	農学部畜産学科西圃場ネットフェンス取設(北部構内ＢＪ30区)	(図版1-158)
	農学部附属牧場大型気密サイロ基礎等取設(京都府丹波町)	(表２)
	工学部分子工学専攻実験研究棟新営(本部構内ＡＺ22区)	(図版1-159)
	理学部極低温高分解能電子顕微鏡室新営(北部構内ＢＧ28区)	(図版1-160)
	結核胸部疾患研究所病院診療棟新営工事(病院構内ＡＥ10区)	(図版1-161)
	宇治地区外国人研究者等宿泊施設(京都府宇治市)	(表２)
	附属病院旧放射線科研究室電気幹線改修工事(病院構内ＡＥ19区)	(図版1-162)
	理学部プラズマ実験装置室周辺配管工事(北部構内ＢＦ32区)	(図版1-163)
	北部構内変電所設備接地改修工事(北部構内ＢＤ33区)	(図版1-164)
	医学部基礎校舎(第Ⅱ期)新営工事の土木関係工事(医学部構内ＡＮ18区)	(図版1-165)
	農学部初期胚操作動物実験室新営空気調和その他工事(北部構内ＢＪ32区)	(図版1-166)
資料整理	医学部基礎校舎新営(医学部構内ＡＮ18区)	(第２章，図版1-143)

２　調査の成果

前節で記載した調査のうち，発掘調査を実施した医学部構内ＡＮ18区(第２章参照)と，北部構内ＢＪ31区(第３章参照)を中心に，昭和60年度に整理を終えた15件について，その成果を略述する。

弥生時代　　北部構内ＢＪ31区で，弥生時代前・中・後期の土器が出土した。北部構内では，ＢＥ29区(図版１-54)〔岡田・吉野79〕で中期初頭の方形周溝墓４基と，それを区画する２本の溝が検出されている。また，追分地蔵地点(図版1-6)〔石田・中村72〕，ＢＤ30

区(図版1-109)〔浜崎83〕，ＢＧ31区(図版1-56)〔泉ほか85〕，ＢＥ33区(図版1-125)〔泉・三宅86〕などで，前期を主体とする弥生時代の遺物が少量ではあるが出土しており，付近の微高地上に集落が営まれた可能性が強い。ＢＪ31区出土遺物も，この集落にかかわるものであろう。周辺の調査がまたれる。

古墳時代　北部構内ＢＪ31区で，古墳時代前半の土師器が出土した。いわゆる布留式のほか，近江系の甕がかなり高い割合で含まれており，近江との強い地域間交流が，弥生時代以来引き続いて存在していたことを示している。

平安時代　医学部構内ＡＮ18区で，11世紀に埋積した河川を検出した。この河川は旧白川の支流のひとつで，北東から南西へ流れ，高野川系の流路にそそいでいたと考えられる。病院構内ＡＦ14区(図版1-39)でもほぼ同時期の河川が検出されており〔岡田81〕，これによって医学部から病院構内にかけての一帯は，このころまで時として河川流路となる不安定な土地であったことがわかった。

鎌倉時代　医学部構内ＡＮ18区で，13世紀前葉の梵鐘鋳造遺構を検出した。小型の鉄製梵鐘を鋳造したもので，出土した鋳型から，梵鐘の概形を復原することができた。梵鐘鋳造遺構は，教養部構内ＡＰ22区(図版1-111)〔五十川・飛野84〕でもみつかっており，古代から中世にかけて，近辺に鋳造にたずさわる工人がいたと考えられる。また，同調査区で検出した12世紀後葉から14世紀前葉にわたる井戸，溝，土坑などは，北接するＡＯ18区(図版1-41)〔泉・吉野79〕で検出した遺構とともに，藤原北家勧修寺流の人々の邸宅やその菩提寺の浄蓮華院にかかわるものであろう。また，これらの遺構から出土した資料によって，従来の土師器編年を検討することができた。

室町時代　医学部構内ＡＮ18区で，黄灰色シルトを採取した土取り穴を検出した。同様の土取り穴を，医学部構内ＡＰ19区(図版1-74)〔清水・吉野81〕，ＡＮ20区(図版1-134)〔五十川86〕などでも検出しており，同構内一帯の土地利用復原のための貴重な資料を得た。北部構内ＢＪ31区では，15～16世紀初頭の流路を検出したが，これは中世の田中構に関係する遺構の可能性がある。今後の調査が期待される。

江戸時代　医学部構内ＡＮ18区で，江戸時代後半の道路，側溝，野壺，水田，溝などを検出した。道路は白川道から分岐して，吉田村へむかう東西方向のもので，近世の絵図にはみられない。この道路は，字窪と字堀の内の境界をなしていたと考えられる。同調査区で検出した水田は，棚田をなしており，水路と柵と思われる多数の柱穴をともなっている。北部構内ＢＪ31区でも水田とこれにともなう溝を検出した。